やけどに気をつけましょう。

令和７年１２月
狛江第六小学校　保健室

低温やけど　あったか～いがやけどに？！

熱くないと思っていても、長い時間からだにあてたままにしていると、気づかないうちに重いやけどになってしまうことがあります。
これを『低温やけど』といいます。

使いすてカイロ、湯たんぽ、こたつ
ホットカーペット
電気毛布など

ようふくや、タオルの上からあてたり、タイマーをセットしたりして、上手に使いましょう。　　ねむっている間にひどくなることも・・・
低温やけどは、深くなっていることがあるので、ひどい場合は病院で診てもらいましょう。

高温のやけど

すぐに冷やすことが大切です。十分冷やした後は、傷の手当てと同じです。おおって乾かさないようにすると痛みも少なく早く治ります。

【注意】

＊洋服の上からお湯がかかったなどの場合は、無理に脱がさずに、服の上から冷やします。（無理に脱ぐと、皮膚もはがれてしまうことがあります。）

＊１０分ぐらいは冷やしましょう。　１分も冷やさないで保健室に来る人がいます。ハンカチを水にぬらして冷やしながら来るといいですね。

＊傷は石けんで洗うと、傷ついた皮膚の細胞が傷んでしまいます。石けんで洗うのは、傷の周りだけにしましょう。

＊やけどのひどさは、温度・あたっている時間・範囲によります。

Ⅰ度のやけど　赤くなってひりひりする。【熱くてもすぐに十分冷やすとⅠ度の場合も】

Ⅱ度のやけど　水ぶくれができる。（水ぶくれがやぶれたら、傷の手当と同じです）

Ⅲ度のやけど　皮膚が深くまで傷つく。（病院でみてもらいましょう。低温やけどはⅢ度のやけどになっていることがあります）